【ライフホール　15：05～15：50】

歯科衛生士と歯科技工士が行う情報共有の重要性

小松原　夕香　　井上　陽介

歯科技工士が補綴装置を製作する際，清掃性を考慮した形態を付与しなければならないことは周知されている．また，清掃性の高い形態についての基本的な考えは，多くの講習会や文献，誌面等で確認することができる．しかし実際の臨床の場では，個人差のある口腔内環境を見定め，その条件によって変化させる必要があることから，正解を導くのは困難であると思われる．そこで基本的には歯科医師とのディスカッションの上，適正な形態を決定する必要があるものの十分とはいえない．

患者個々の詳細な情報は，清掃器具の使用状況などを含め歯科衛生士が最も把握している．そのことから，歯科衛生士とディスカッションすることにより多くの情報が得られ，口腔内に調和する補綴装置製作に繋がるのではないかと考える．

そこで今回，歯科衛生士と歯科技工士がどのような情報の共有を行い補綴装置の製作をおこなっているのかを臨床例を用い解説したい．

○小松原　夕香

【略歴】

2003 年　大阪産業大学附属歯科衛生士学院専門学校　卒業

2003 年　医療法人　浦野歯科診療所　勤務

2009 年　日本臨床歯周病学会認定歯科衛生士　取得

○井上　陽介

【略歴】

2005 年　岐阜県立衛生専門学校歯科技工士学科 卒業

2006 年　Institute Dental Technology of California 卒業

2006 年　AuCeram 勤務

2007 年　有限会社ファイン 勤務

2012 年　松川歯科医院 勤務

2017 年　IEDITION　設立

【所属・役職】

大阪 S.J.C.D 臨床テクニシャンコース インストラクター

新大阪歯科技工専門学校 専攻科非常勤講師

日本臨床歯科学会 大阪支部 会員